

# 熊本地震 美咲野小の想い 第3話



## 「私はこう考える」編 その2

○震災から2週間がすぎましたが、子どもも親の私たちも学校へ登校できることのありがたさを痛感しております。特に1年生の息子は入学後3日しか登校できず「学校生活」を感じることもなく1ヶ月を過ごし、ランドセルを背負う楽しさも制服を着る喜びも、やっと今味わうことができていることだと思います。毎日、楽しそうに「行きます！」と玄関を出て行く姿にこちらが元気をもらっています。

○地震を通して、家族の絆や近所の方とのつながりの大切さなど、感じることも多かったです。近所の方々と助け合い、話し相手になってもらい子どもも大人も思い詰めることなく過ごせて本当に良かったです。

○地震の経験は辛いだけでなく、大切なたくさんのものを再確認させてくれました。・家族の絆・人々のやさやあたたかさ・必死に前を向き進んでいく強い人間の姿・水や食べ物のありがたさ・平穏な毎日が当たり前ではなく、感謝しなければならぬこと。  
早く落ち着いて、平穏な日常が戻ってきてほしいです。平穏な日々が戻ってもこの経験で学んだことは決して忘れないように、一日一日を感謝し、大切に生きたいと思います。



○今後、また何かの災害が起きたとき、子どもたちもスムーズに避難することができるよう訓練をしておくことは大切だと思います。大人数だからということではなく、きっちりと大人も子どもも動けるように定期的に続けて欲しいと思います。

○美咲野小だよりを読んで学校の状況を知ることができて良かったです。今回の地震で、ごく普通に過ごせる日々がどんなにありがたいことか実感し、日頃の災害時の備えの必要性がわかりました。子どもたちとも家での災害時の避難方法を話し合ったりもしました。被害が大きかったところはまだ大変だと思いますが、今回いろいろなことが教訓となりました。

○本震の後、すぐに車に乗りましたが、どこに避難すればよいかと思っていたところに、近所の方から「美咲野小の運動場に車を入れる」ことを聞き、すぐ移動して車中泊をしました。一度目の地震の時は主人が出張でおらず、近所の方から声をかけてもらい、一緒に避難所で一泊することができました。  
夜寝る前には「もし大きい地震が起きたら、こうしようね。」と確認してから、寝ています。子どもたちの心をしっかり把握し受け止めて見守っていこうと思います。

○皆が自分のことで精一杯の状況の中で、先生方が家庭訪問して下さったこと、とてもうれしかったです。子どもたちが帰ってこられる環境を整え、温かく迎えて下さったこと、美咲野小だよりを読み涙が止まりませんでした。先生方にはとても感謝しております。ありがとうございました。

# 美咲野小だより

5月

NO. 12  
H 2 8 . 5 . 3 1  
大津町立美咲野小学校  
文責：草場ルミ子

## 慈恵亭の

地震により、学校は四月十五日から五月八日まで休校になりました。その間の学校や先生たちの動きは、先の美咲野小だよりでお知らせしたところですが、今日はその間の昼食についてご紹介いたします。あの頃の食べ物と言え、菓子パン、おにぎり・カップ麺がメインでしたよね。「ああ汁物が欲しいなあ」「野菜が食べたいなあ」と思い始めた頃、本校の有志の先生たちが先ずは味噌汁を作ってくれました。だんだんみんながお米や野菜、果物などを持ち寄るようになり、毎日昼食は「美咲野定食」ができあがり、みんなで配膳、片付けをしてくれていたのです。あの学校開放日の間も、それがみんなの元気につながり、あのようないた日々を乗り越えることができたことと今になって改めて感じます。「チーム美咲野」の自慢でした。先生たちに感謝です。

## 「人権の花」運動 5月23日（月）

とをとおして、協力・感謝する心を学び、生命の尊さを実感する中で、人権を尊重する心を育てることを目的に実施されています。人権擁護委員、法務局、役場の方々がおいでになり、伝達式を実施しました。

また、地震後、大阪府から養護の先生が交代できて下さっており、第2クールで来校されている山田茜先生が在籍される大阪府泉南市立信達小学校の佐野校長先生から「命のひまわり」の種を頂きました。5年前の京都、交通事故で亡くなった、当時幼稚園児だった子どもさんが生前植えられていたひまわりの花から受け継がれた種とのこと。人権の花運動としてマリーゴールドの苗やひまわり・こすもす・百日草などの種やプランター・土・人権の花運動の看板をいただいておりますが、それに合わせて、信達小からいただいたひまわりの種も一緒に植えようと考えています。種が採れたら地域に広げていくつもりです。

